

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2010年4月30日】

団体名 青梅自然誌研究グループ

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

フクロウ・ムササビ・コウモリの棲処を守る～樹洞性動物の調査・保護活動

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

フクロウ類、ムササビ、コウモリ類などの樹洞性動物は、繁殖・休息・ねぐらなどに利用する樹洞の減少により、その生息基盤が失われつつあり、その多くはレッドデータブックに掲載されています。このため、これら樹洞性動物種の生息状況の把握と、その保護に有効とされる巣箱の設置活動は、地域の生物多様性を保全に寄与すると考えられます。また巣箱設置活動の際に、地権者や周辺住民の協力を得ることは、地域の生物を知ってもらう契機となると期待しています。

2005年からは当会は青梅市内で地元地権者に協力を得ながら大型巣箱の設置を行ってまいりましたが、現在では巣箱の老朽化も進んでいます。そこで、新規の場所も含め、新たに巣箱を作成・設置するとともに、より詳細な巣箱の利用状況調査を実施し、今後の巣箱活動の改良を進めて行きたいと考えました。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

・大型巣箱の作成

・巣箱の設置 : 地権者の了承を得られた市内4ヶ所で設置。また、利用状況を確認しながらメンテナンスを行った。

・巣箱の利用状況の調査 : センサーカメラなどや利用の痕跡を直接確認して、巣箱の利用状況を調査した。

・生息状況調査 : 巣箱設置箇所以外でも、青梅市内での樹洞性動物の生息状況調査を行った。

・普及・広報 : 野生動物への影響が懸念されるため直接的な観察会などが実施できないため、活動報告を行うためのホームページを開設予定 <http://www.somanoho.com/>。

また、フクロウ類の生息状況調査結果の一部を、「第2回 東京の鳥・シンポジウム『東京都のRDB・今われわれのできること』」(2009年11月4日 渋谷区立千駄ヶ谷区民会館)にて、「西多摩の猛禽類」として発表した(青梅自然誌研究グループ、青梅オオタカ調査チームと共同報告)。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

協力して頂く地権者の方々に対しては、野生動物の生息地であることを説明し、土地を所有していることが野生動物の保全の上で重要であることを理解して頂くように努めました。

巣箱の設置は、野生動物にその存在を認知してもらうまで、ある程度の期間が必要です。今後とも地権者の方々に協力いただきながら、継続して観察やメンテナンスを行って行く予定です。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

過去に設置した巣箱でも、ムササビなどに利用してもらうまでは、数ヶ月から何年もかかりました。今回新たに設置した巣箱を利用するようになるのも、まだ先のことと思いますが、息長く観察していこうと思います。

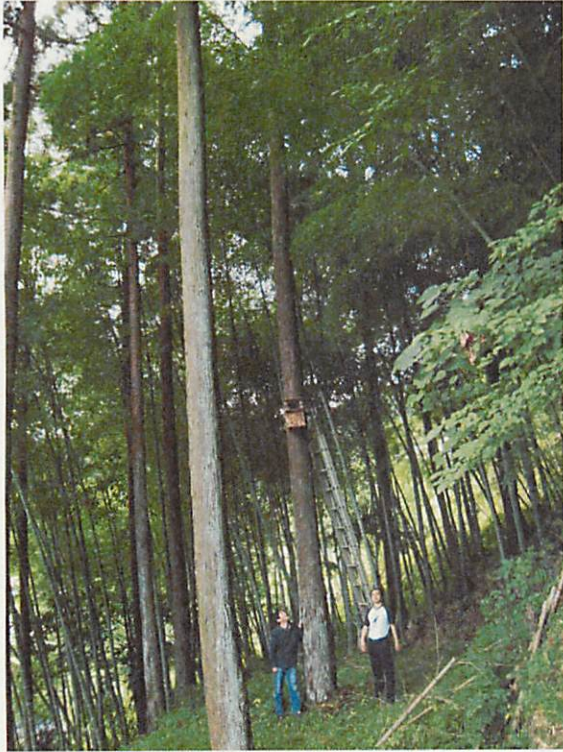
今後も、新たに協力して頂ける地権者を探して、一つでも多くの巣箱を設置していきたいと思っています。

6. 参考資料

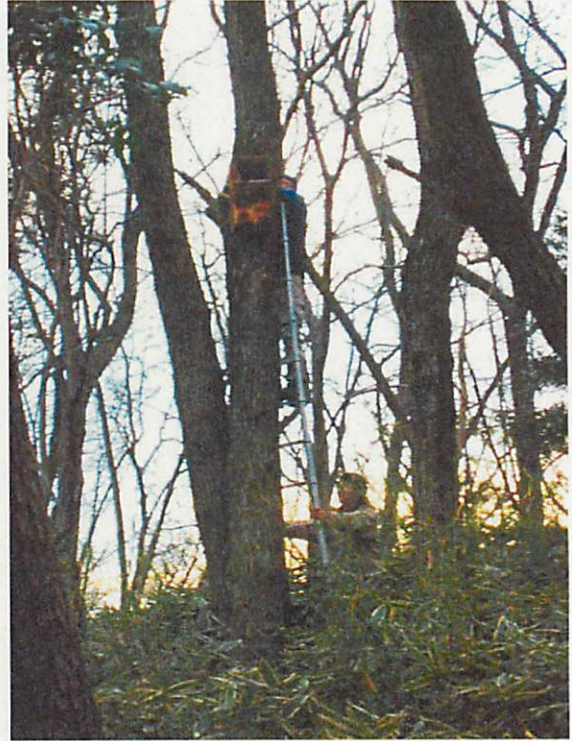
支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり
(写真・シンポジウムレジュメ)

参考資料



巣箱の設置風景



巣箱の設置風景



巣箱を利用したムササビの糞

(シンポジウムレジメは添付 pdf ファイル)